



静岡県議会報告

平成29年6月号



自民改革会議 **五輪会**
静岡県議会議員

おち あい しん ご 落合慎悟



地域の声を県政に反映
ご意見ご要望をお聞かせください。



4/25~26 航空自衛隊 松島基地視察



松島基地管制レーダー 1970年代に開発 T-4戦闘機
UH-60J救難ヘリコプター 1990年代に開発 F-2戦闘機
基地司令官はカレー
基地による被災地視察

松島基地は東日本大震災の津波で戦闘機が18機、車両など大被害を被った。戦闘機が飛立つには相当な準備時間が必要で、当時指令が、津波来襲に間に合わない判断を下し、全員屋上に避難した。反省の意味を含め、基地には、被災で使用不能の機体・車両が展示してある。格納庫などは4m程、地盤の嵩上げ工事が完了し、津波対策が取られていた。
松島基地は、浜松基地などで訓練終了の新規パイロット免許取得者の最終パイロット養成場所であり、ブルーインパルスの基地でもある。当日は、高度な飛行訓練も見学できた。東松島市の行事には積極的に参加し、住民からの騒音問題は無く、市民とは大変良い関係と伺った。基地司令との会食はカレーであった。松島では水曜日はいつもカレーと決まっているそうだ。午後は基地の広報担当者の誘導で、東松島市、石巻市女川町などの被災状況視察を行った。

4/17~19 九州茶産業視察

JA鹿児島県経済連 茶市場



鹿児島茶の現状説明 茶市場が開催されていた 茶の香り色の確認 高値の見本茶は無い

鹿児島県の茶摘採面積は静岡県の約半分、約8,000haで、茶葉収穫量は静岡県14万トンに迫る、約12万トンと現状説明や有機栽培230町歩(69万坪)などの経済連としての取組状況について説明を受けた。
当日は、鹿児島茶市場は24社の登録茶商が参加し、入札を行っていた。茶市場入荷状況は、例年の1週間以上遅れていて、まだ、南部の島物がほとんどだった。静岡県でも、10日以上の遅れが予想され、茶商が困っている。市場担当者から鹿児島茶市場独自開発した、茶の出品状況や市場の仕組み、インターネットを利用した茶生産履歴表示システムの解説があった。

(株)下堂園 常に新商品開発で茶業界を一步リードしている。



下堂園本社工場 解説付き茶料理昼食 高級志向の茶葉と茶飲料 フレーバティーや茶チョコ

昭和29年創業、「ゆたかみどり」専門で伊藤園「おーいお茶」に採用された。また、KEIKOブランドの有機栽培茶をドイツに12トン輸出している。
新商品開発に力を入れ、フレーバティーの開発やお茶ビール、知覧茶Ale、ほうじ茶Aleなども開発。茶農家とともに開発した、6千~7千円/kgのお茶を使う1本5,000円のワインボトル茶はJR九州列車「ななつ星」に採用された。2000年・2005年に食事スイーツが味わえる茶舗「らさら」を2店舗出店。昼食は鹿児島中央駅前の下堂園店舗「らさら」で説明を受けながら食べた。

室園銘茶(株) 宣伝をしなくても売れる美味しくて価格が安いお茶(深蒸し茶)を提供



室園銘茶本社工場 深蒸し茶製造工場 室園社長がお茶を入れる 緑色が綺麗な深蒸し茶

創業93年の室園銘茶は、戦後飛行場跡地を茶園に開墾し、大規模化した。室園社長は、昭和26年静岡県農業試験場に勤務し、当時、県の農政部長だった高橋さんから栽培と経営を学んだ。昭和31年に茶大暴落を経験し、38年に機械化を導入を決定、41年に製造工場が完成した。
室園銘茶は42町歩の茶園(自園4町歩)から生葉を仕入れ、荒茶工場、仕上げ工場、袋詰め、販売とすべて一貫生産販売している。
八女茶は深蒸しの方がおいしいと深蒸しに拘り、35度で5回揉捻を繰り返す特許製法をしている。宣伝なくとも売れるお茶を追求し、販売を確立した。

4/12~13 高知県津波対策視察

横坑 幅3m、高さ3.5m、奥行33m、立坑 直径2.5m、高さ23.9m 避難スペース71.1㎡、収容人員71人



避難シェルター入口 シェルター内 監視カメラ 螺旋階段 屋上出口はH=30m 誘導看板
高知県庁で津波対策 避難誘導看板は沢山存在 避難タワー設置場所無しの都呂 避難タワー

室戸市喜浜町都呂地区に28年8月完成した津波避難シェルターは崖に縦横の穴を掘って整備した、全国初の津波避難シェルターである。この避難シェルターは高知県が整備し、室戸市に無償で引き渡された。東日本大震災以降に、避難誘導路の案内看板を各所に設置し、崖状況の山には階段を設置した。しかし、老人は階段が登れず、対策が急がれていた。室戸市は、南海トラフ地震が起き、津波が最高の到着時間でなく、津波が1mの高さに達する時間表示している。この地区は10分程度で到達予測される。さらに地震震度は最大7で、最大津波高さは24mとなっている。
都呂地区は防潮堤横が道路で崖地との間に約50人集落を形成している。山裾に住宅、空地もなく、避難タワーを設置スペースがない状況で困っていた。現在、シェルター入口のカギの管理は区長と役員が管理しており、非常時でもすぐに開けることができる。ドアは防水構造で2重扉になっている。シェルター内には監視カメラが備えてあり、外部の状況が監視できる。電源は常時電源以外に屋上に非常用発電機が設置されている。
地区民はシェルターを使った避難訓練を今年開催し、非常時に備える準備を経験した。現在は非常用の水だけが、非常用食料などをこれら充実する予定となっている。

4/17 熊本地震から1年後視察

熊本地震から1年後の南阿蘇村、益城町を視察し、熊本県庁で地震後対策の聞き取り調査。

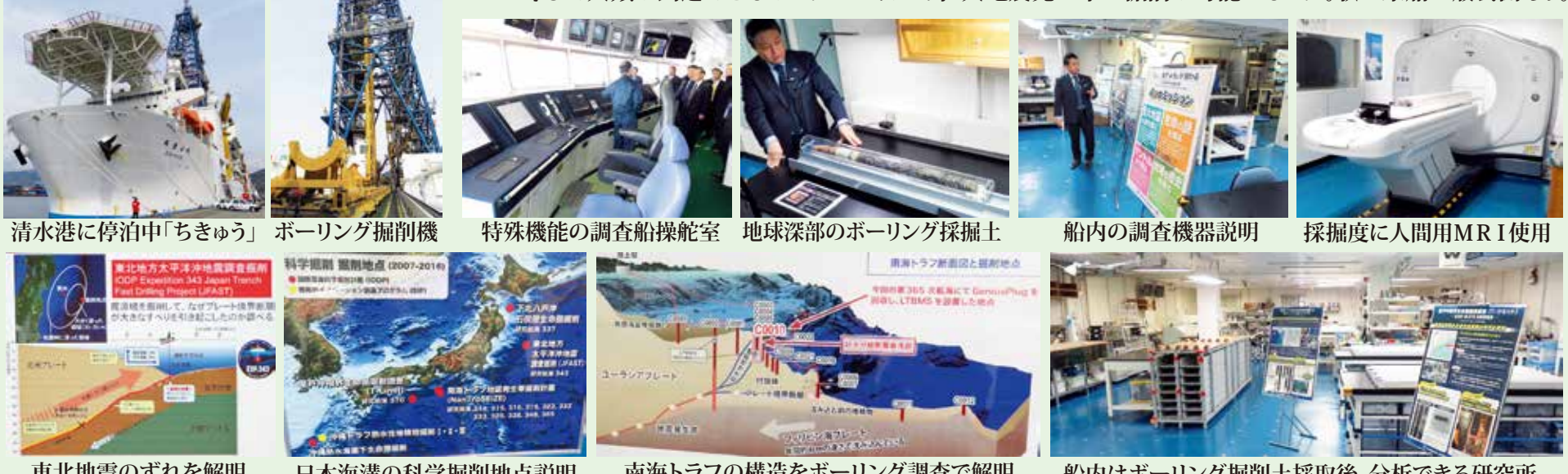


落下の阿蘇大橋はそのまま 東海大学の入口駐車場 学生アパートもそのまま 撤去された建物跡に番号 まだ屋根に青シート益城町
熊本城は五輪までに仮入場 熊本県庁入口被災写真 益城町地割現場地質調査 益城町架設庁舎建築中 工場団地内益城町仮設住宅

南阿蘇村の倒壊建物、東海大学学生アパートは大半撤去されたが、一部はそのまま。建物跡には番号表示がある。阿蘇大橋は落下したままで復旧はまだ見通せない。
益城町では広大な工場団地空き地に架設庁舎を建築中、団地内に仮設住宅もある。益城町では活断層地盤調査で建築許可が出ない。復興までには時間がかかる。
熊本城は2020年五輪までに仮復旧させ、入場予定。静岡県からも職員派遣しているが、まだまだ支援が必要。視察後、熊本県庁で地震後対策を聞き取り調査した。

3/25 地球深部探査船『ちきゅう』視察

(独)海洋研究開発機構の世界最高掘削能力(海底下7000m)の地球深部探査船。世界各国の研究者乗船。今まで人類が到達できなかったマントルや巨大地震発生帯の掘削が可能になった。秋に乗船一般公開あり。



清水港に停泊中「ちきゅう」 ボーリング掘削機 特殊機能の調査船操舵室 地球深部のボーリング採掘土 船内の調査機器説明 採掘度に人間用MRI使用
東北地方太平洋沖地震震源域 GCP Expedition 342 Japan Trench Core Drilling Project (JFAST) 科学掘削 掘削地点(2007-2016) 南海トラフ構造をボーリング調査で解明 船内はボーリング掘削土採取後、分析できる研究所

3/9~11 岩手・宮城県災害復旧状況視察 震災当時と現在



山田町の倒れた防潮堤 コンクリートの防潮堤がほぼ完成
町長職員被災の大槌町役場 被災建物を保存する予定
「釜石の奇跡」の鶴住居地区 嵩上げ高台整備が進む
「奇跡の一本松」の陸前高田 一本松北側は嵩上げが遅れる
南三陸町歌津駅 高台移転と嵩上げ工事
気仙沼市鹿折唐桑駅付近 鹿折地区区画整理事業



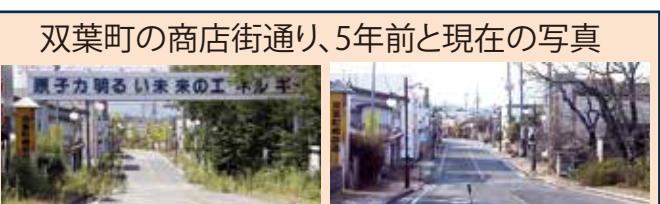
流された気仙沼市小泉大橋 改築中の小泉大橋
南三陸町志津川地区 南三陸さんさん商店街
被災の南三陸防災センター 被災遺跡として残す
南三陸町戸倉小学校 高台移転した戸倉小学校
南三陸町戸倉中学校 戸倉地区公民館となった
石巻市新北上大橋 新北上大橋横の大川小学校

東日本大震災から6年余の状況



全国の皆様ありがとうございます
石巻市雄勝中学校跡地付近の嵩上げ復興事業の状況と中学校の垂れ幕。カキ養殖も復興。
陸前高田の一本松は常に人々が訪れる。
津波防災の先駆け「千年希望の丘」命山事業 岩沼市は津波被害後、仮設住宅建設などの住民支援を強力に進めている先駆的な街。
福島県浪江町の請戸小学校は放射能汚染で帰宅困難区域だったため、規制が解除された今も被災した当時のままの状態にある。

3/23 福島県原発災害復旧状況視察



双葉町の商店街通り、5年前と現在の写真



楢葉町、富岡町、浪江町、南相馬市は、放射能汚染土が入った黒の放射能汚染廃棄物用フレキシブルコンテナが各地に積み上げてある。まだこの汚染土の処分場所が決定していないが、この地域は、帰宅が許可された。
楢葉町〜南相馬市までの国道は放射線測定を表示。帰還困難区域の大熊町と双葉町はバリケードで進入禁止。

3/24 福島第一原発廃炉研究施設視察



富岡町、楢葉町、大熊町に福島第一原発廃炉研究施設を整備、富岡町の国際廃炉研究センターが中央研究所。廃炉研究センターは、4月から研究測定機器が入り、各大学や世界の研究者達が集まり廃炉について研究する。楢葉町遠隔技術開発センターはロボットによる原子炉内調査の最先端技術の開発を担っている。
第一原発の廃炉に向けた研究は、まだ始まったばかり、原子炉内部の損傷状況が未解明であり、人間が数分で死んでしまう高レベル放射能の場所である。デブリといわれる原子炉を突き破った溶けた核燃料を取り出すことは今の世界の技術ではできない状況。スリーマイル原子炉事故の場合はデブリが原子炉内部に残っていたため、取り出すことができた。福島第一原発では、取り出しに40年を見込むと言うが、研究者達は現段階では、取り出し方法について想像もつかないと言っている。